



春風駘蕩



ラジオで今年を表す漢字は何か、12月12日に京都清水寺で発表されると伝えていました。もう師走ですね。9日、10日にはアリオ橋本でロボット大集合2023が催され、本校生徒が活躍しますので、是非足を運んでみて下さい。今回は瀬戸大橋に行った話題です。

瀬戸内海に架かる本州と四国を結ぶ連絡橋の最初に出来た瀬戸大橋に行ってきました。

瀬戸大橋は海峡部9.4kmに架かる6つの橋梁（下津井瀬戸大橋 橋長1400m、櫃石島橋と岩黒島橋 ともに橋長790m、与島橋 橋長850m、北備讃瀬戸大橋 橋長1538m、南備讃瀬戸大橋 橋長1648m）の総称で、鉄道と道路の併用橋で1988年4月10日に開通しました。

本四連絡橋の調査は1955年4月に国鉄が神戸・鳴門ルート of 調査に着手、翌5月に宇高連絡船「紫雲丸」と「第三宇高丸」が霧の中で衝突し沈没、修学旅行生168名が犠牲となりました。この事故を機に本四連絡橋への気運が高まり、1959年4月には建設省（現、国土交通省）も調査を開始しました。

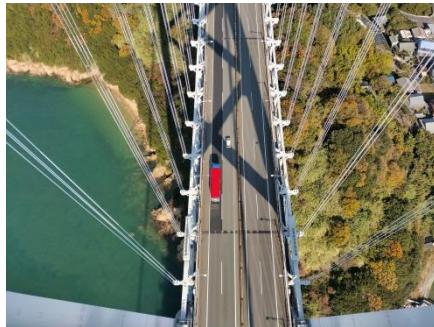
1970年に本州四国連絡橋公団が設立され、1977年最初の着工として児島・坂出ルートに決定し、1978年10月10日起工式を行い着工となりました。この間様々な技術開発と実証実験が繰り返され堅牢に見える橋も台風並みの風速や波の影響さらには温度による伸縮、車両や列車走行時の撓み、繰り返えし振動や跳ね返り振動の影響を多角的に検証し、さらに橋梁端の線路伸縮はおよそ1.5mにも及ぶと考えられ差込桁式軌道伸縮装置の開発を経て完成に漕ぎ着けました。まさにChance Challenge Creativeな建造物の代表的存在だと思います。



という訳で今回、点検用の通路（線路脇）を歩いて橋脚棟の天辺に上がって来ました。

点検用通路と線路の間が空いているのは新幹線用のスペースだそうです。

天辺は割と広くとても安定感があり怖さを感じませんでした。



海面からの高さ175mの橋脚天辺

真下を見下ろすとこんな感じ。

上からの景観はなかなかです。

見学は本州四国連絡高速道路㈱から申込が出来ます。鉄道研究部の皆さんも一度訪れてみては如何ですか。